

ツキイチ屋台から「見つめあえる幸せ」

1

私の生業は、建築の意匠設計。いわゆる、あらゆる建物のデザインの仕事です。

2010年に独立し、以前は天六、今は中津の中津商店街の中に自身の設計事務所兼自宅があります。仕事のパートナーでもある主人と小学生の息子と3人「職住一体」の生活をしています。

そして、このコラムのタイトルにもある『ツキイチ屋台』を、事務所の前で月に1度、第2土曜日の13時～17時で仕切る女将でもあります。

設計事務所と聞いてあまりその仕事や働き方にピンとこない人も多いと思いますが、その仕事のほとんどは、クライアントに土地と建てたい建物の用途があって、それを依頼され、設計と現場監理することです。世の中にはたくさんの設計事務所がありますが、そのほとんどがビルの一室にあり、普段その仕事ぶりが人目につくことがないのでピンと来なくて当たり前だと思います。



しかし建物は『マチやヒト』に密接に関係しているはずなのに、なぜその設計事務所をビルの一室に閉じこめてしまうのでしょうか？ もっと『マチやヒト』を感じながら仕事がしたい！ 逆にそこに設計事務所があることでマチがちょっと楽しくなるような、そんな働き方がしたい！ そうすることで、きっと他の設計者とは違う視点で建築に関われるはず！ と思い、独立する際の場所探しのポイントは『まちに開いて仕事ができ、上に住んで楽しいところ』でした。なので、天六の時も今も「うちの事務所」は路面にあり、ガラス張りで外から丸見えです(笑) おかげで、前を通る近所の人と仕事をしながらでもガラス越しに挨拶できたり、子供たちが窓際にある模型を覗いて声をかけてくれたりします。

天六時代は事務所をマチに開くことから始めたのですが、ここ中津に魅かれて5年前に引っ越そうと思ったのは、ある仕事がきっかけで「自分自身ももっとマチに関わるプレイヤーになりたい！」と思ったからでした。そのきっかけの話はまたいつか書くとして、このコラムでは、中津での『職・住・遊』一体の暮らしを通して見えてくる、私が大好きな『マチとヒトとその周辺』について書き記し、みなさんと『まちなか暮らしの面白さ』を共有できればいいなと思っています。まずは一度中津へ足を運んでみてください！

■岸上 純子：建築家・ツキイチ屋台女将



『キタのまちのニュースレター』 発行にあたって

昨今のコロナ禍により「人と会うことが難しくなった」「外に出る機会が少なくなった」という方はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。人との関わり方や日々の生活が以前と変わりつつある今「新しい繋がりや趣味を見つけてみたい」という声も多く耳にします。北区民センター・大淀コミュニティセンターはどなたでもご利用いただける会議室やホールの貸出を行っています。英会話・書道・太極拳・楽器練習・発表会…などなど、市内外問わずたくさんの方が様々なことを学んだり楽しんで、皆さまの交流の場として親しまれています。

コロナ禍の今「地域の方々にとって身近な存在である両センターのことをもっと知って頂きたい！」「自分たちの住む北区のことをもっと知って頂きたい！」そんな思いから、両センターの取り組みや、北区の魅力を紹介する記事を掲載し、『ニュースレター』を皆さまのお手元にお届けします。これを読んで頂いた皆さまが、自分たちの住む『キタのまち』をより深く知ることができるよう願っています。北区民センター、大淀コミュニティセンターともに土・日・祝祭日を問わず毎日開館しています(年末年始は除く)。なお、7月末現在、北区民センターは新型コロナウイルスのワクチン接種会場となっていますので、8月以後の開館状況は、直接同センターまで問い合わせください。

地域の魅力再発見 「北区を遠望してみると」

大阪の地図を西が上になるよう回転してみると(右地図・参照)、北区は「鶴」のように見えます。縁起よし！中之島は頭から首、大阪駅やうめきたは背中、淀川沿いは翼、大川沿いはお腹。さらに、大阪環状線を京橋まで、都島通を野江内代あたりまで描くと、鶴の足となります。鉄道や道路は現代の足そのものですね。北区と隣の区との境は、淀川、大川、堂島川、土佐堀川がほとんど。川らしい柔らかな地形に囲まれているからこそ、生き物に見えたのでしょうか。

形のみならず、まちは生き物であり、瞬時に変わる風景はまだしも、移り行く変化は気づきにくい。都会は複雑であり、よく観察する必要があります。ただし、好きなところからはじめる方が楽しいので、筆者のお気に入りを取り取ってみました。

▽淀川河川公園(西中島・十三野原地区)からの眺め / 都心の超高層ビル群を眺めつつ、緑と風は心地よく、鳥はさえずり、空は広い。人工と自然を味わえる(右写真・参照)。

▽お初天神 / にぎやかな通りを抜け都心のほっこり空間。昔に引き戻された感じ。夕方になれば提灯がともされ、焼鳥の匂い。まさにパワースポット。

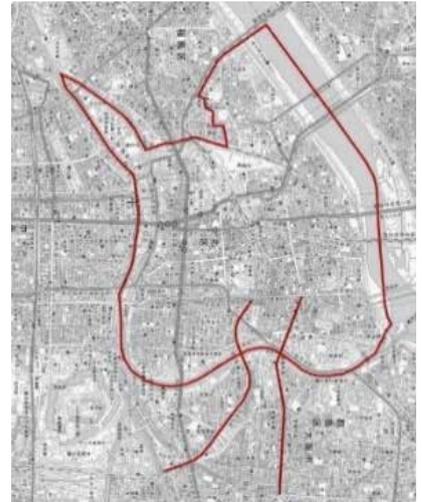
▽中之島の物語 / 難波橋より東、「ばらぞの橋」で途切れる先は埋め立てで生まれ「剣先」まで続く。が、なぜか一体感は希薄。天満堀川との関係か、大川を分流するための工夫か、それともっと別の理由なのか。

▽川崎橋 / 華奢な斜張橋。大川が南から西へとまさに向きを変えるところ。曲線の頂点からは、川をぐるりと見渡せ春は桜が視界を覆う。ふり返れば、大阪城。

▽梅田スカイビル空中庭園 / 2本の超高層ビルを連結させ、屋上を開放した展望台。淀川と大阪湾の風景。空港へ着陸態勢を整える旅客機。ビル群の向こうの大阪城。

人は五感の刺激により情報をキャッチしています。デジタル技術の発達やコロナ禍でも、「リアル」や「ライブ感」といった感受性は奪われたくないものです。そこで地域の魅力を再発見し、五感を刺激して、大好きな「どこか」を探り当てる。そんな「旅」にお誘いしたい。と、この連載をスタートします。

■福田 知弘：大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学
専攻准教授/NPO 法人もうひとつの旅クラブ 理事



出典：https://maps.gsi.go.jp/ 地理院地図 電子国土 Web を加工して作成



—キタ歩き日本旅 大分県の巻—

日本 47 都道府県中、北区の「大阪駅前ビル」には、その(約)半数にもおよぶ道府県事務所が立地しています。それはまるで、ご近所から「旅」の趣です。そこで「キタ歩き日本旅」と題して各県をご紹介します。お楽しみください。

九州全県(鹿児島・宮崎・熊本・佐賀・長崎・福岡・大分)と沖縄の県事務所は、すべて「大阪駅前ビル内」にあり、周遊気分の「県事務所めぐり」が楽しめます。『旅』のスタートは、「おんせん県おおいた」の大分県大阪事務所です。

大阪と大分は古くから航路で結ばれ特に「別府航路」は、日本の「近代観光」の先駆け。船旅のご縁は昭和の時代、「大阪の作家」織田作之助の文学に現れ「戦前の昭和」に3回も長逗留したといわれています。ここからは取材の「聞き書き」です。

大分県は温泉だけではなく、「食」の豊かさでも抜群です。例えば魚、豊後水道の恵は数多く「城下かえい」は江戸期からのブランド。現代の代表は「関あじ」「関さば」。育てる漁業でも「かぼすぶり」は絶品、貝類も豊富です。川では鮎やモクスガニ、エノハ(アマゴの地域名)も美味、魚だけでも書ききれません。陸では「おおいた和牛」の他、ブランド豚やブランド地鶏も多彩です。さらに、権茸を含め、お野菜がどれも新鮮でみずみずしく美味…と(書ききれないのでブランド名は省略させていただきました)。

また、県内各地には磨崖仏(大きな岩肌に彫られた仏様)などの文化遺産も豊富。他の文化的個性も各地様々なことから「知られざる旅の穴場」が数多いとのこと。さらに耳寄り情報ももらった。大分空港と大分市中心地に近い「西大分港」がホバークラフトで、僅か25分で結ばれ2023年度中にも実現の運びらしい。

令和3年7月25日発行

大分は「道の駅」も多種多様とのことだ。これに、焼酎であれ日本酒であれ「旨い酒」の「酒蔵」を絡めると、見事な「個人旅行」が楽しめる。例えば、ホバークラフトの着地に近い西大分駅(隣が大分駅)から日豊本線・豊肥本線・久大本線など JR 九州を利用し、「地域の観光タクシー」で巡れば、ハンドルを気にせず試飲の旅も気兼ねなし。「ゆ(湯)ったり」オリジナルの旅が楽しめる。

新型コロナウイルスにより、「旅」が遠くなってしまいましたが「ご近所の日本旅・道府県事務所」を巡り、旅をイメージすることで「新しい一歩」を、一緒に踏み出したいと考えています。



「通年・定期」では世界唯一とされる英国本土とワイト島間のホバークラフト 出典：https://response.jp/article/2020/03/08/332412.html

3

「つながりの風景」マイタウンに行く 肥える情報発信

「お住まいはどこ？」と聞かれ、「北区です」と答えると「良いところに住んではいませんか」と、ほとんどの人がこう返します。たぶんみんなが想像する北区と私が住んでいる中津はちょっと違うような気がします。

北区でも淀川に近い中津は、戦災を免れた昔ながらの長屋と細い「路地」が多く残る町。同じように道が細く古い建物が残るお隣の中崎町も雰囲気は似ていますが、中津は表通りに看板を出すお店が少ないのが特徴です。

すべての人がそうではないでしょうが、無目的に「ぶらぶらまち歩き」をしたくなるのが中崎町で、明確な目的があって「訪ねる」のが中津のようです。だから、中津は「用事がないと来ない町」だし、お店情報なんかでも直接聞ける昔ながらの人のつながりが強い町です。

立て看板が少ないだけで町の時間がゆっくりに感じる「ここだけ時間」も不思議です。周辺の開発から取りこぼされた町ですが、それ以上に「良い意味で都会の中の田舎」です。

この「ゆるさ」は、梅田貨物線と淀川に囲まれたエリアで強く感じますが、地下鉄・中津駅周辺はまったく違います。同じ中津でも貨物線を挟んで雰囲気はガラッと変わります。

ところが、ゆっくりとした時間が流れる「この町」にも危機がやってきました。想像していた再開発の波ではなく、新型コロナの影響です。小さなコミュニティのつながりで成り立っていたこの町に感染拡大による外出自粛の波が押し寄せ、人のつながりが分断され、人の姿が消えました。

特に影響が大きかったのが飲食店。もともとごく小規模で、それゆえ「絶妙なバランス」だったのが一気に崩れました。そんな町の状況を見て何かできることはないかと始めたのが「中津の町の飲食店のテイクアウト情報の発信」でした。町じゅうを自転車で走り、営業をしているほぼすべてのお店の動画を撮影！ YouTube にアップしました。すると瞬間に再生回数が伸び、今では数千を超えました。たくさんのコメントもいただきました。

「行列は困る」と内緒にしていたお店ですが、お客さんの数が減り「やめはったら困る」と、逆に積極的に宣伝しました。日常の移ろいは多様ですが「つながりの風景」は大切にしたい。そんな気持ちでマイタウンを紹介してゆきます。



■平井 裕三：都心の田舎のユーチューバー

より便利に、より身近に、センターをご利用いただけるようになります！

今年度より、両センターでは新サービスの開始を予定しております。まず、7月下旬より『インターネット予約受付』を開始いたします。事前に所定の手続きを行っていただく必要がありますので、7月上旬以降に窓口へお越しください。今後、6ヶ月後の応当日の抽選もインターネットから参加可能になる予定です。また、8月以降より、コンビニエンスストアでの収納代行サービスの開始を予定しております。遠方にお住まいの場合や、ゆうちょ銀行がお近くにない場合でも、最寄りのコンビニエンスストアでご利用いただけるサービスです。時期は未定ですが、北区民センターでは、フリーWi-Fiの導入も予定しております。今後とも、2つのセンターをどうぞよろしくお願いたします。

浪花百景歳時記 ジキジンゴンゴンのお囃子が響く 「天神祭り夕景」一珠斎国員

『浪花百景』は、大坂の歌川派の浮世絵師、一珠斎国員（生没年不詳）、南粋亭芳雪（1835～1879）、一養斎芳瀧（1841～1899）の三人が手がけた百枚そろいの中判組み物の錦絵である。制作年代は明治直前の文久・元治・慶応年間と思われ、現在の大阪市中央区平野町にあった板元の石川屋和助から刊行された。画面左下に「石和板」とあるのは、石川屋和助の板（出版）であることの略称である。



歳時記でいえば、七月は大阪の祭りの月であり、市内各所で夏祭りが催される。とりわけ七月二四日、二五日の天神祭が盛大であり、『浪花百景』にも各地の祭礼が描かれているが、天神祭を描いた作品に「天満天神地車宮入」「天神祭り夕景」

「戎島天満宮御旅所」がある。

しかし現在、感染症の流行により神事は執り行われるが、一般の参詣や露天などは制限され、規模が縮小されている。今回は、せめて華やかな錦絵に江戸時代の船渡御をのんびりしてみたい。

絵は日の落ちたばかりの夕景に、御神輿を中心に船団が進む情景を描く。左端に焰がたちのぼるのは篝火船があるのだろう。作品は『撰津名所図会』の挿絵を参考に描かれたと思われる。とするならば左下の欄干は堂島川にかかる大江橋か渡邊橋だろう。菅原道真公の御霊がお通りになるとき橋は通行止めになっていた。対岸にも提灯が連なる。堂島の米相場あたりだろうか。

むこう側の二基の神輿を乗せた船は多くの漕ぎ手がのり、戎島の御旅所へと目指しているが、面白いのは、画面中央に大きく描かれた船や、その周囲の提灯を吊り上げた船である。これらは川岸近くに停泊した屋形船で、机を囲んで乗客も宴会を開き、涼しい川風にあたりながら一杯きげんで船渡御を観覧している。

屋根に乗る男は、プカプカ浮かんだ船同士がぶつからないよう監視している船頭なのだろう。船には給仕の仲居さんらしき女性も描かれているし、手前には小舟一杯にスイカを積み込んだ西瓜船もある。当時の北浜や中之島には料亭もあり、そこからも船渡御を見ることができただろう。

一時、大阪大学も「阪大船」を出して船渡御に参加していた。頭上で開いた花火は大迫力だったが、出航待ちが暑かった。私のような不精者は冷房の効いた屋形船で浮かんでいるのが好みである。長い間コロナで自宅にこもっているせいもあるが、「天神祭り夕景」のこの船が懐かしくもあり、なんだかうらやましい（次回、浪花百景歳時記に続く）。

■橋爪 節也：大阪大学教授 総合学術博物館（前館長）／大学院文学研究科兼任

中央公会堂にて



「落語とビジュアルアートのアニュアルレ」

▽コミュニティの「つながり」から「落語とビジュアルアートのアニュアルレ」という企画を考えています▽新しい物語を共有し、絵本になるかも？の夢を紡ぐ企画です▽会場は大淀コミュニティセンター10/17(日)開催予定です▽詳細は同センター、北区民センター、北区役所などにあるチラシを参照してください▽抽選でご招待いたします。

編集後記

『キタのまちのニュースレター』No.1 をお読みいただき、ありがとうございました。今、皆さまのお手元に『ニュースレター』が届いていることをうれしく思っています。さて、北区民センターでは、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいます。今年も地域の行事が相次いで中止となっていますが、来年こそ元に戻るようお願いいたします。